

Title	福田徳三著 社会運動と労銀制度
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.8 (1922. 8) ,p.1201(153)- 1204(156)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220801-0153">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220801-0153</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

尙は未解のまゝに残されたる根本問題、即ち經濟學認識論の抑も可能となり得る從て經濟學に論理上の前提を與へ、經濟學の對象をして可能ならしめ、又かくて經濟生活の向ふ歸趣、目的、意義が依て以て其の認識論上の重要決定せられ得べしとする經濟的文化價值若くは文化價値の性質、構造、重要及び一文化價値の他の文化價値に對する關係如何等、換言すれば經濟哲學の根本問題は透徹なる論理によつて本書の中に遺憾なく展開せられてゐる。所謂經濟學の上限下限は本書を俟て初めて一貫的に明かにせられ得たものと云ふことが出来ると思ふ。當然第一論文集と併せ讀まらるべき書である。

本書は是れ固より純然たる哲學的勞作として哲學界に將た又思想界に當然獨特の地位を占むべきものなるも此處には經濟學の關心事とする方面に即してのみ其の重要さに就て述べた。若し夫れ本書が類稀なる眞理に對する燃ゆるが如き思慕の熱情と論理に對する嚴肅なる態度の餘になれるの事實に至ては著者自らの言葉を以

て語るに如くはない。而して是れ本書の有する意義と價値とを最も端的に語り得るものなりと思ふ。著者は言ふ「如何なる學問研究者も彼が嚴肅なる學的良心を有する限り自らの研究する當面の問題について假令一段落を告げ得たと思ふときでも常に其の内には更に解決を要すと思惟する根本問題の残されて居ることを思はぬものがあるであらうか。そして此の如き根本問題の更に深き考究によつて前きに段落をつけ得たと思はしめた問題の意味を一層明にし之を補足せしむるに至らざるものがあるであらうか。此の意味に於ては如何なる研究と雖も自足完了の狀態に至るといふことを以て常に一個の永久に實現することを得ざる理念とせざるを得ないのであらう。……著者は未だ嘗て彼が發達する如何なる研究に於ても此の念ひに煩はされざるものは殆んどない。然れども彼は寧ろ之に依つて私かに研究者たるの光榮と誇とを感じつゝあるものである」と。讀過せざるに畏敬尊崇の念を禁め得ない。(勝本鼎一)

福田徳三著 社會運動と勞銀制度

四六版本文三九七頁  
定價金三圓九十錢  
東京改造社發行

福田博士の近業「社會運動と勞銀制度」一篇は「社會運動の理論的根據」「勞働爭議の意義及び種類」並びに「勞銀制度」の三編から成る。何れも昨年の講演速記である。第一編は本年二月に刊行せられたる「社會政策と階級闘争」(本誌三月號新刊紹介欄参照)の第一部「社會政策序論」を基礎として通俗的に講演せるものである。我々は人格生活、經濟生活の二方面を有する。人格生活は無限に伸張せんとするものである。然るに經濟生活には幾多の制限があり、其の制限は軀がて人格の支配關係を産み出す。殊に今日の流通經濟生活に於ては其の支配關係が甚だ有力にして廣汎なるものと爲る。就中、土地、貨幣及び企業三者中、其の三種又は二種の所

有を併有する企業者が雇傭勞働者に對する支配關係は極めて廣汎且つ有力にして又た濃厚なるものである。従つて其れが爲めに被る人格生活の制限、人格の支配的壓力は甚だ大なるものである。經濟生活と人格生活との衝突は此の企業資本對雇傭勞働の關係に於て最高頂に達してゐる。個人其の儘の生活は人格の孤立を意味する。固より孤立者には他の人格の壓迫は存しない。其の代りに財の生活の壓迫、即ち非人格性自然の壓迫を受ける。是れより免るゝの道は個人の生活を社會化して、共同生活を營むことに由つてのみ得られる。社會化せる共同生活に在つては人格と人格との間の衝突が起る。國家は此の共同生活の最高なる形態として現れ、人格と人格とが互に相接觸して一つの人格が他の人格を壓迫することなきを勉める。若し個人が個人としての自由のみを主張するならば其の極は社會の破壊と爲る。社會を破壊して了へば他の人格の壓迫を受ることがなくなる。而も其の代りに財の生活の更らに大なる壓迫を受ける。個體

は社會生活の充實により、財の生活の束縛から解放せられて個人生活の充實を期するの外はない。社會政策は國家を脅かし、健全なる社會を脅かす力が次第に増加し來ることを認めて、今より之れを取除かんとするものである。即ち社會政策とは社會が社會の爲めに社會の力を以て行ふ政策である。社會が社會の爲めにするところは、今日では國家が國家の爲めにする形態に於て現るゝが故に、「政策」と稱せられる。國家は自己の存續の爲めに行政を行ふ。而して階級的對立が人類の共同生活を脅すことを認めて其の弊害を除去せんとするの意思を以て行政を行ふことが社會政策である。然るに社會運動は國家の方面よりするに非ずして、當事者——主として人格を壓迫せられ、支配せられ、束縛せられたる當事者が其の壓迫、其の支配、其の束縛を取除くが爲めの運動である。従つて社會運動と社會政策とは兩々相俟つて其の効果を擧げることが出来る。而して今日に於ける社會運動の代表者たり典型たるものは労働運動、就中現實の

労働争議である。茲に第一編は盡きて労働争議の考察を旨とせる第二編は始まる。博士は今日の労働争議を以て單に労働雇傭の條件に就いて其の當事者が相争ふ經濟的争議たるに止まるものに非ずして、一の大なる紛争、即ち階級闘争の先驅として又た其の代表者として意義を有するものと看做し、諸般の見地より其の種類を分類し、之れを以て世界の産業を進め、労働階級を向上せしむるに貢献する所大なるものなりと認め、之れを根絶せんとするの思想を以て痴人の夢なりと斷じ、労働争議を合理化し、道德化し、公正化し、醇化し、争議の發生する度毎に聊かたりとも一般社會の安寧を進め、其の幸福を増さしむ可く之れを善導するの一事を以て社會政策の最大なる任務であると解してゐる。而して労働争議の最も重要な問題は現在及び近き將來に在つては労働制度に集中してゐる。是に於て乎、第三編に至つて労働制度が評論せられてゐる。博士は「労働制度」を以て *Methods of wages* と解し、*wage-system* の意味として一言を費する。曾つて深遠と難解とを以て知られたる博士は今や前者を失ふことなくして、後者と絶縁し、淺薄と浮躁とに陥ることなき經濟學のポピュライザーたるの一面を具有せんとしてゐる。本書の如きも亦た斯くの如き博士の一面を窺知せしむる産物である。博士が學界に匹儔を見ざる達辯は博士をして這般の使命を全うせしむるに貢献する所、殊に大なるものがある。唯だ悞る、博士の辯舌、餘に流暢に過ぎて停止する所なく、引例豊富に過ぎて、聽者の興味を枝葉に集め、往々にして根幹を忘却せしむるの失なきかを。今、博士が饒舌の一例として左の兩齣を引く。

取らず、即ち *wage-system* を許容する立場に於ける雇傭労働者に對する雇傭者の報酬支拂に就いて行はるゝ一切の行程の謂なりと觀てゐる。而して労働制度は労働者を一單位として見たる時の労働支拂の形態と同じき又は異なる労働形態にて支拂を受くる労働者の一體に對する労働支拂の系統とより成るものと做し、労働形態を列舉分類し、時間給及び出來高給の諸形態を批判し、而して「賃銀制度 *wage-system* を全然廢すれば兎に角、さうでない限りに於て、労働者をして自治 *self-government* を得せしめ、彼れ等をして成る可く自由の人間たらしめよう」と云ふには、彼れの得る報酬と彼れの仕事とが出來るだけ縁が遠くなつて、而も彼れの能率が正當な、而して人格の要求と一致する刺戟を受け得るやうにすることに労働協約並びに工場委員制度が與つて大に貢献し得るのである」と論結してゐる。尙ほ附録として百八十四頁に互れる「労働形態報告摘要」が掲げてある。吾人は今、單純なる本書の紹介を以て筆を擱く。が、唯だ

我々の家に使つて居る下女云ふものも矢張りさうである。下女として使ふことはきまつて居る、之れをタイブライター掛に使ふとか、或は書記掛に使ふとか、電話交換機に使ふとか云ふ場合には特定するけれども先づ下女に使ふ。之れを下女に使ふと云ふものは何をするかは使ふ方の人でも分らない、今日は幾人お客様があつて、長つ尻のお客様は、直ぐ歸るお客様が分らない、長つ尻のお客様であれば、隨つて餘計用事がある、平生は早く寝る家でも、お客

様が長く甚を闇んで居ればやはり起きて居らなければならぬ。サア何處を掃け、何處を拭け、使ひに行つて來い、坊ちゃんのお供をして學校へ行つて來い。郵便を入れて來い。……

例へば八百屋から大根を買つて來る、家へ歸つて庖刀を入れて見たらまるで縁が立つて居て食べられない。それを八百屋へ行つて、八百屋サン、困るぢやないか、こんな大根を賣つては食べられやしない、取り換へて呉れよ云ふ。八百屋の方ではイヤ取り換へませぬ、あなたが何故買ふ時に吟味しない、あなたが自分で勝手にあれだ、これだと引續返して持つて行つたのでありませぬか、私の方にも委せになれば、そんな物は上げないのですけれども、あなたが自分で持つて行つたのだから仕方ありませんと斯う云ふ。イヤお前の店に縁のある大根を置くと云ふ事が間違つてゐるぢやないか、お前の店を信用して居るから買つたのだと云ふやうに争議が起る。……マサカ大根一本で裁判にはなるまいが、訴へれば訴へられる。

(高橋誠一郎)

### 前號(第十六卷) 第七號 目次 (大正十一年七月號)

#### 論 說

小作料の高低

氣賀 勘重

英國に於ける銀行合同の趨勢と其特色

堀江 歸一

近世資本主義起源考續論(一)

阿部 秀助

サー・ホリアム・テムブルの經濟論(上) 高橋誠一郎

#### 雜 錄

人口集中の現象に對する經濟的説明

奥井復太郎

勞働管理問題一斑(一)

園 乾治

露西亞に於ける勞働組合運動(一)

町田義一郎

中華民國財政の整理(上)

胡 已 任

ジェイ・エス・ミルと經濟學の定義(一) 榎本 鏞治

#### 新刊紹介

デイル、モンヘルト共編社會主義的重要文

献宣言綱領集成

加田 哲二

Lee K. Frankel Alexander Fleisher:—The

Human Factor in Industry.

園 乾治

●一冊定價金五拾錢  
●半年定價金貳圓九拾錢  
●一年定價金五圓四拾錢  
郵税金壹圓五厘 郵 稅 共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛  
●營業に關する用件は發賣元宛  
●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十一年七月卅一日印刷納本  
大正十一年八月二日發行  
每月一回一日發行

三田學會雜誌  
禁轉載  
第六十卷第八號  
編輯者 江 田 範 保  
發行所 東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内  
印刷者 金子 鐵 五 郎  
印刷所 東京市赤坂區新町五丁目四十二番地 金子 活 版 所

發賣元 國文堂書店  
東京市芝區三田貳丁目壹番地  
電話高輪一三七番  
振替東京四六九九九番

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所 東京芝三田 慶應義塾内 理財學會